

証券コード6730

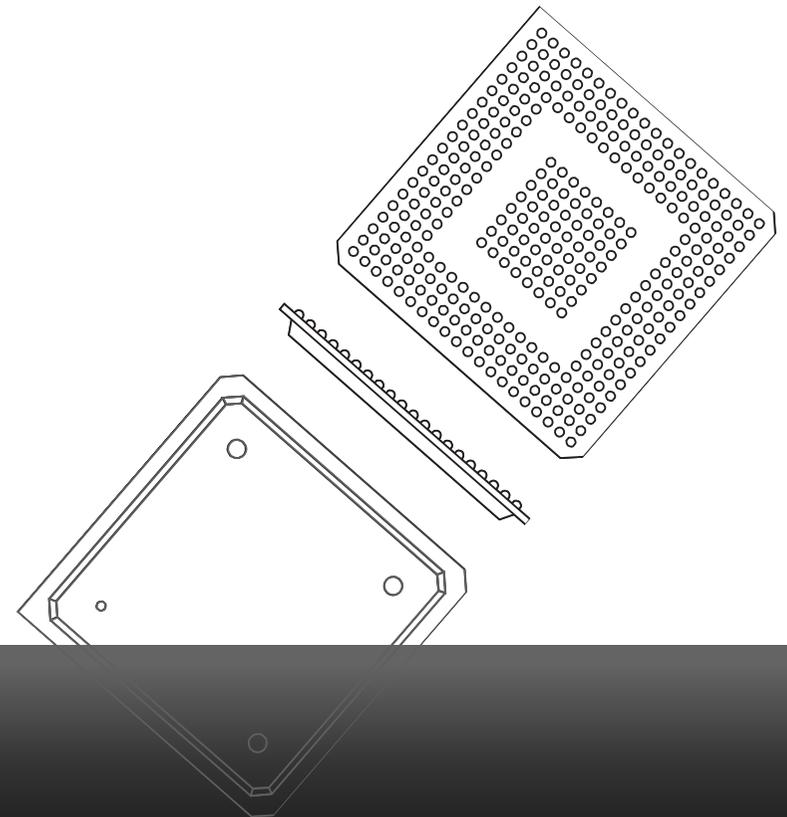
株式会社アクセル

2014年3月期（第19期）第2四半期

決算説明会資料

2013年10月28日

代表取締役社長 松浦 一教



市場環境

- 2014年3月期の遊技機販売台数は、前年並みの約380万台と予想し当期の業績を計画
- 上半期の市場動向は概ね想定の範囲内で推移しているものと分析
- パチンコ不調、スロット好調の大枠に変更ないが、スロットの稼働が低下するなど、スロットの人気回復傾向にも陰りがみられる

中間決算の概要

- 前年同期との対比では、売上高で40%減の5,675百万円、営業利益では58%減の898百万円と減収減益
- 一方、当初計画（中間）との対比では、売上高で14%増、営業利益では100%増と当初計画を上回る
→ 9月17日に業績予想の修正を実施
- 中間決算では売上高、各利益とも当初計画を上回る業績推移も、現時点で通期計画の見直しは実施せず

(単位：百万円)

	'14/3 中間 当初計画	'14/3 中間 9/17修正	'14/3 中間 実績	売上比	'14/3 通期 計画	'14/3 中間 進捗率
売上高	5,000	5,650	5,675	100%	11,000	52%
売上原価	2,850	3,280	3,275	58%	6,200	53%
売上総利益	2,150	2,370	2,399	42%	4,800	50%
販管費	1,700	1,530	1,501	26%	3,450	44%
営業利益	450	840	898	16%	1,350	67%
経常利益	450	840	896	16%	1,350	66%
純利益	280	540	572	10%	850	67%

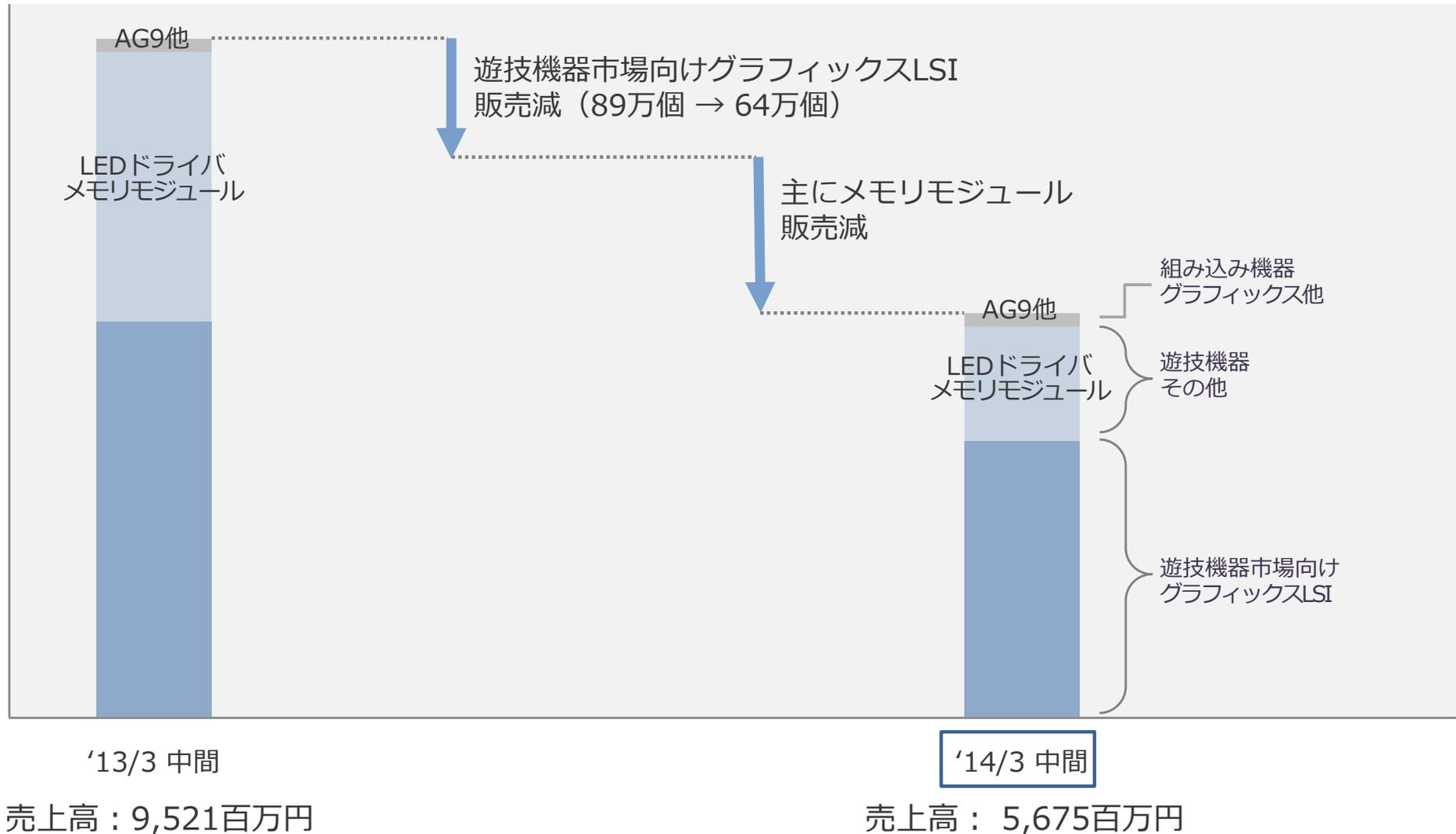
- 当初計画との対比では、売上高で14%増、営業利益以下の各利益については約100%増と計画値を超える状況
- 売上高増加の要因は「遊技機器市場向けグラフィックスLSIのリユースの影響が想定より小さい」「LEDドライバLSI、メモリモジュール製品の需要が想定を上回る」等
- 販管費は主に研究開発費の期ずれにより198百万円の未消化（当初計画比12%減）
期ずれの要因は主に遊技機器市場向け周辺LSI、組み込み機器市場向けグラフィックスLSIの試作開発費
→ 中長期的な販売計画への影響はなし
- 受注残は3,760百万円と足元の受注状況は良好
- 通期決算では計画の見直しを実施しない
→ 販売面では下期以降のリユースの状況が不透明（下期分の受注を取り込んでいる可能性もある）
→ コスト面では通期の研究開発費の支出見通しに大きな変更はない

（単位：百万円）

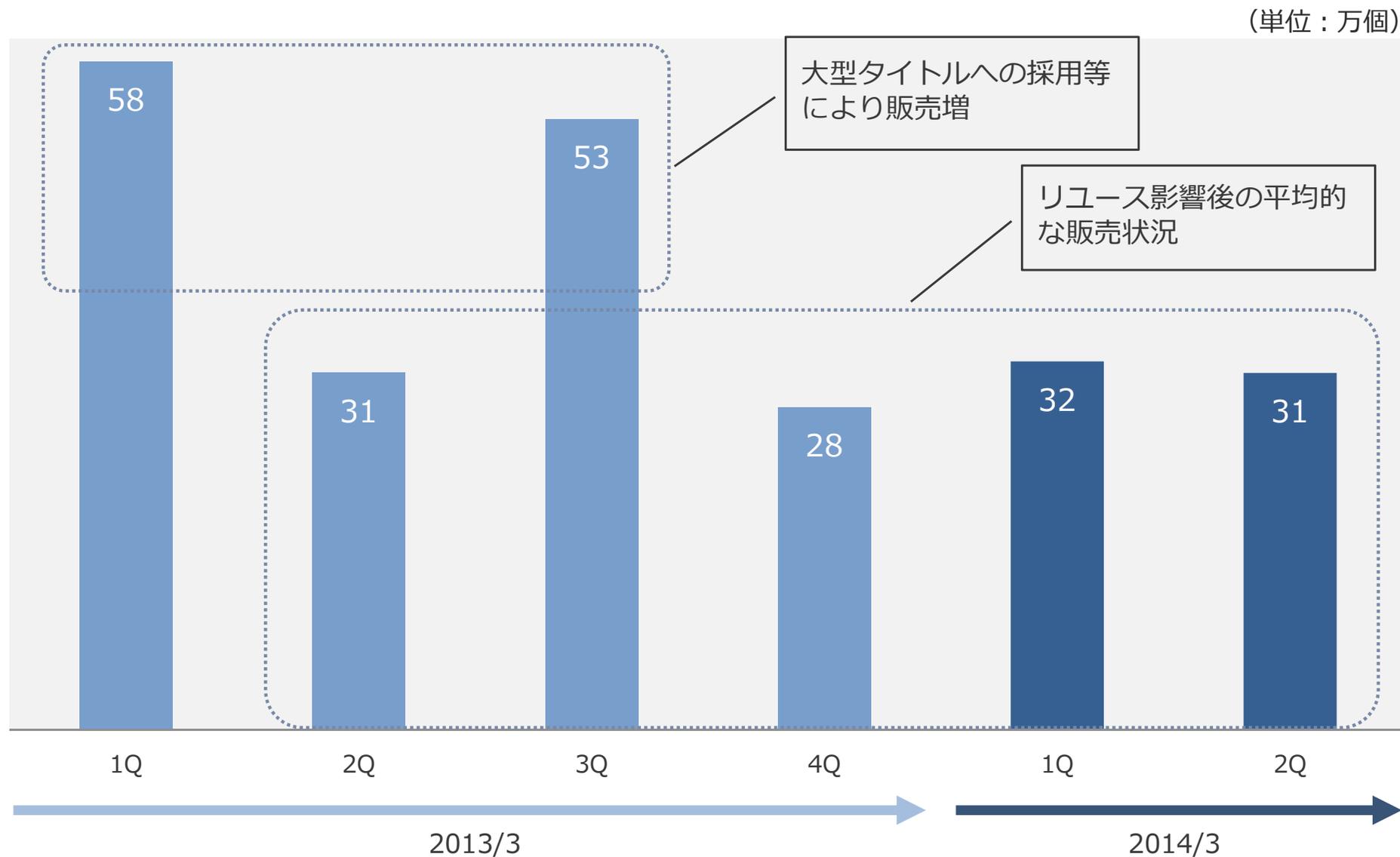
	'13/3 中間 実績	売上比	'14/3 中間 実績	売上比	増減額	増減率
売上高	9,521	100%	5,675	100%	△3,845	△40%
売上原価	5,878	62%	3,275	58%	△2,602	△44%
売上総利益	3,643	38%	2,399	42%	△1,243	△34%
販管費 (研究開発費)	1,507 (924)	16% (10%)	1,501 (982)	26% (17%)	△6 (57)	△0% (6%)
営業利益	2,135	22%	898	16%	△1,236	△58%
経常利益	2,142	23%	896	16%	△1,246	△58%
純利益	1,418	15%	572	10%	△845	△60%

- 前年同期との対比では、売上高で40%減、営業利益以下の各利益では約60%減と減収減益
- 遊技機器市場向けグラフィックスLSIは約25万個減の64万個の販売
→ 前年同期は大型タイトルへの採用があり（P.6 参照）
- メモリモジュール製品も顧客の需要動向により販売減少
- 以上により売上高は前年同期比 3,845百万円減少の5,675百万円
- 販管費は前年同期比ほぼ横ばいの1,501百万円
- 以上により、営業利益は売上高減、販管費ほぼ横ばいで、1,236百万円減の898百万円

売上高 5,675百万円（3,845百万円減）



遊技機器市場向けグラフィックスLSIの販売推移



(単位：百万円)

	'13/3中間	構成比	'14/3中間	構成比
流動資産	13,921	95%	13,041	94%
現金・預金	7,847	54%	6,505	47%
有価証券	3,999	27%	3,999	29%
売掛金	1,044	7%	1,078	8%
商品及び製品	742	5%	1,020	7%
その他	288	2%	437	3%
固定資産	658	5%	855	6%
資産合計	14,580	100%	13,896	100%
流動負債	1,729	12%	1,030	7%
固定負債	12	0%	33	0%
負債合計	1,742	12%	1,063	8%
純資産合計	12,837	88%	12,832	92%
負債・純資産合計	14,580	100%	13,896	100%

主に前期決算に由来する法人税及び
配当の支払いにより減少 ※C/F参照

当期中に販売を予定している
メモリモジュールの在庫が増加

流動負債	'13/3中間	'14/3中間
買掛金	457	398
未払法人税等	735	328
その他	536	303

(単位：百万円)

	'13/3 中間 実績	'14/3 中間 実績
現金及び現金同等物の期首残高	11,118	13,264
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,291	△1,772
投資活動によるキャッシュ・フロー	△190	△119
財務活動によるキャッシュ・フロー	△372	△867
現金及び現金同等物の増加（△減少）額	727	△2,759
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,846	10,504

営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前純利益：896百万円

売上債権の増加：△358百万円

たな卸資産の増加：△438百万円

その他流動負債の減少：△593百万円

法人税等の支払：△1,023百万円

投資活動によるキャッシュ・フロー

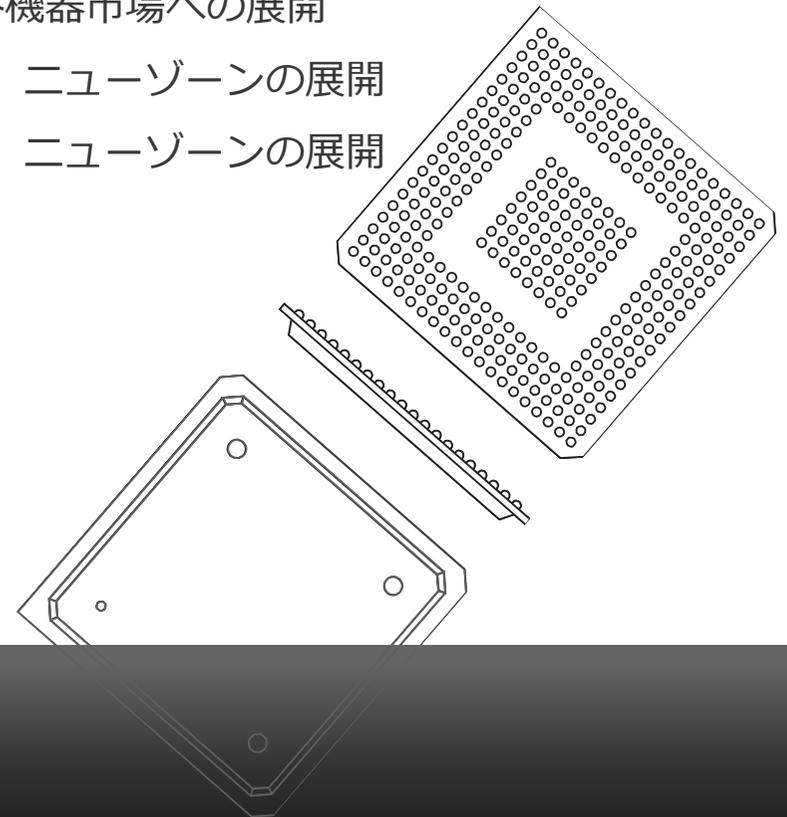
有形固定資産の取得：82百万円

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額：866百万円

1. 補足資料

- P.10 2014年3月期 連結業績計画
- P.11 2014年3月期 連結売上計画の分析
- P.12 アクセルが目指す姿。戦略のテーマ
- P.13 戦略 ① 遊技機器市場での深掘り戦略
- P.14 戦略 ② グラフィックスLSIを核とした組み込み機器市場への展開
- P.15 戦略 ③-1 世の中にない新しいものを創造する、ニューゾーンの展開
- P.16 戦略 ③-2 世の中にない新しいものを創造する、ニューゾーンの展開
- P.17 遊技機器市場で顕在化したリユースへの対応
- P.18 リユースの影響と今後の業績イメージ
- P.19 目標とする経営指標と配当政策



(単位：百万円)

	'13/3 実績	売上比	'14/3 計画	売上比	増減額	増減率
売上高	16,717	100%	11,000	100%	△5,717	△34%
売上原価	10,075	60%	6,200	56%	△3,875	△38%
売上総利益	6,642	40%	4,800	44%	△1,842	△28%
販管費	3,382	20%	3,450	31%	67	2%
(研究開発費)	(2,155)	(13%)	(2,300)	(21%)	(144)	(7%)
営業利益	3,260	20%	1,350	12%	△1,910	△59%
経常利益	3,272	20%	1,350	12%	△1,922	△59%
当期純利益	2,071	12%	850	8%	△1,221	△59%

販管費の主な増加要因：試作開発費の増加（2014年3月期の主な試作開発：AG5, AG903, 無線関連等）

売上高11,000百万円（5,717百万円減）を計画

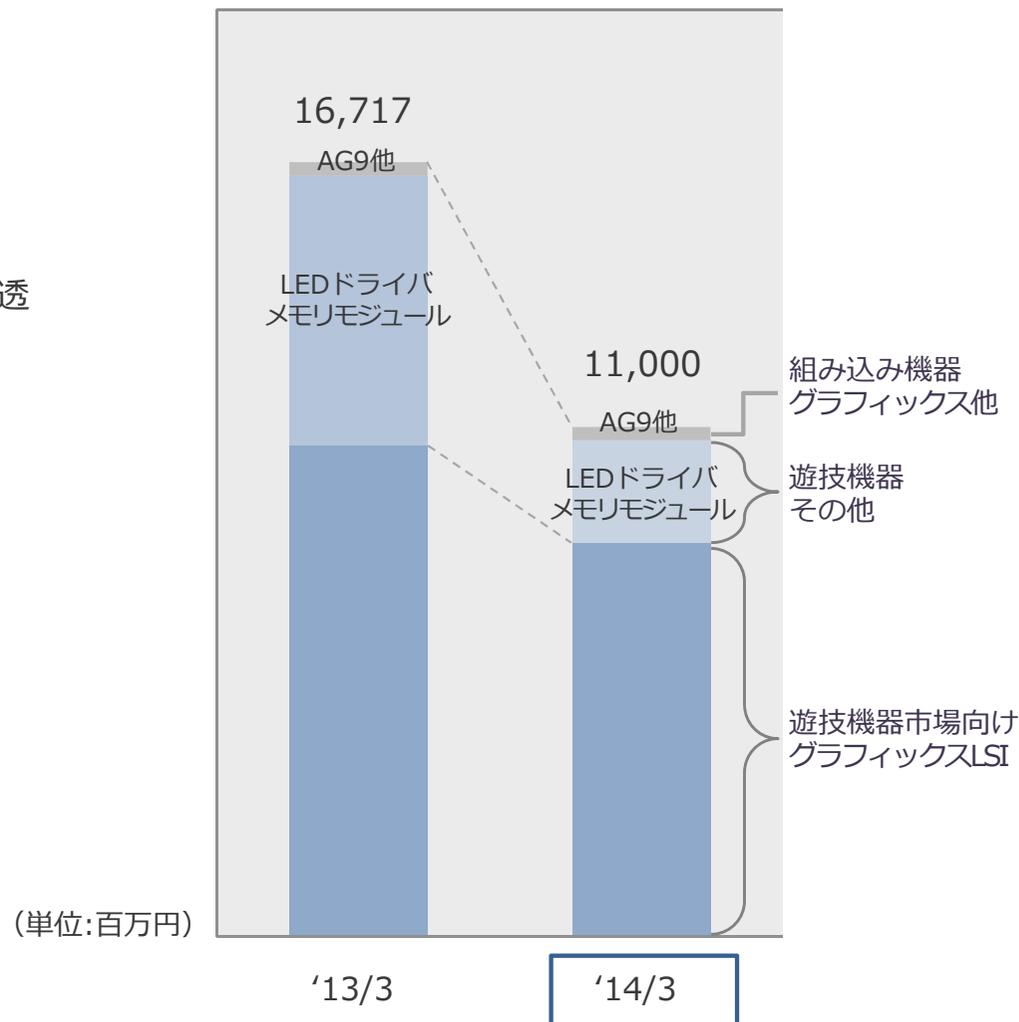
遊技機器市場向けグラフィックスLSI

- 販売個数：170万個 → 140万個
市場（遊技機器の年間販売台数）は前期並を想定
AG4へのさらなる移行とAG4のリユースが段階的に浸透

その他

- LEDドライバLSI
：需要動向により減少
- メモリモジュール
：リユースの影響等により減少
- AG9他
：需要動向により減少

売上高（2期比較）





アクセルの強み



半導体技術を核とする
新ビジネスの創出

子会社「ニューゾーン」を設立



アクセルの事業領域

■ 遊技機器市場
年間300万台~の大市場

■ 組み込み機器市場
多種、小~中規模

ニューゾーンの事業領域

■ 既存市場にとらわれない新市場の創出
将来性のある市場での先行開発

戦略①

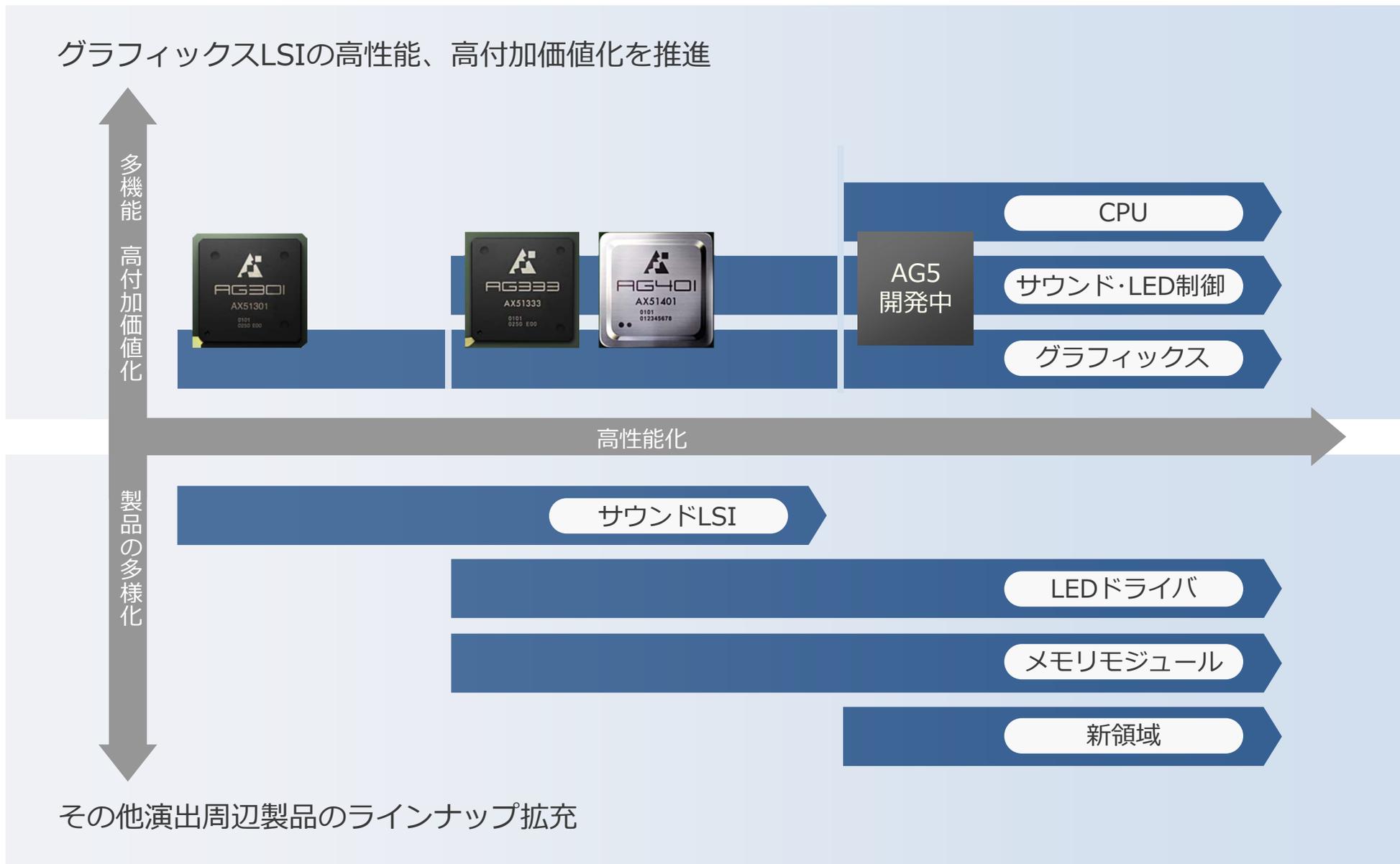
遊技機器市場での
深掘り戦略

戦略②

グラフィックスLSIを核とした
組み込み系機器市場への展開

戦略③

新たな市場を創出する
ニューゾーン



コア技術であるグラフィックスLSIを核に、組み込み機器市場を開拓



新たな市場への展開

現在のプロジェクト：デジタル簡易無線向け各種製品の開発販売

- ・ 2008年に簡易無線のデジタル化が開始（総務省により2022年11月までにデジタル化完全移行）
- ・ データ通信が可能になったことにより潜在市場が拡大

現在の無線データ通信方式（例）

携帯電話

- インフラの整備がなされている
- 高速・大容量データ伝送が可能
- 通信コストが高い
- 緊急時の回線確保が困難

WiFi ・ ジグビー

- 高速・大容量データ伝送が可能
- 通信距離が短い
- ランニングコストがかからない



ニューゾーンの提案

- デジタル簡易無線の新たな提案
- デジタル簡易無線を使ったデータ通信
- LSI化による機器製造コストの低減
- 高圧縮LSIの開発による効率的な画像伝送

（例）河川水量監視



開発状況



① 無線での画像伝送用LSI「NZ101」

開発完了

- 狭帯域無線で画像データ転送を実現
- システム製品としての販売が中心



② デジタル簡易無線用LSI「NZ201」

2013年度中にLSI開発完了予定

- 無線機の小型化を実現
- 機器の低コスト化に貢献

営業状況

① バス乗降状況確認装置への採用

② 「NZ101」搭載のALINCO製品（静止画伝送システム）共同開発中

③ 監視システム製品開発中

④ 危機管理産業展2013出展、ET2013出展予定

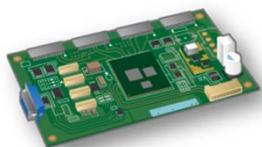
※バス乗降状況確認装置のイメージ図



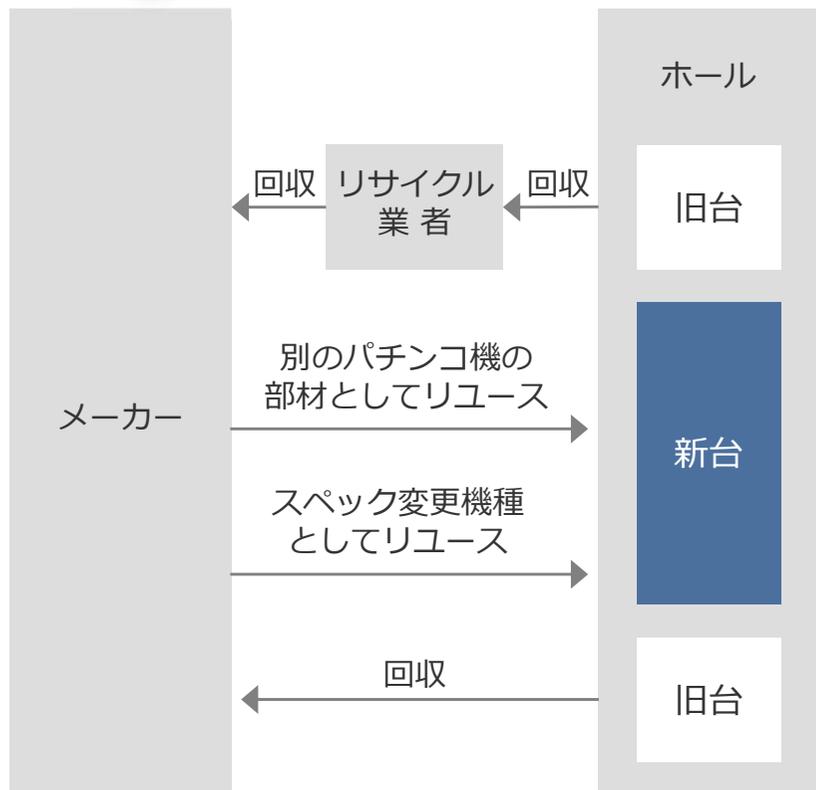
乗降状況を確認

遊技機器メーカーのコスト削減策のひとつとして浸透
製品ラインナップ充実により、リユースサイクルの谷底を上げる

リユースの構造

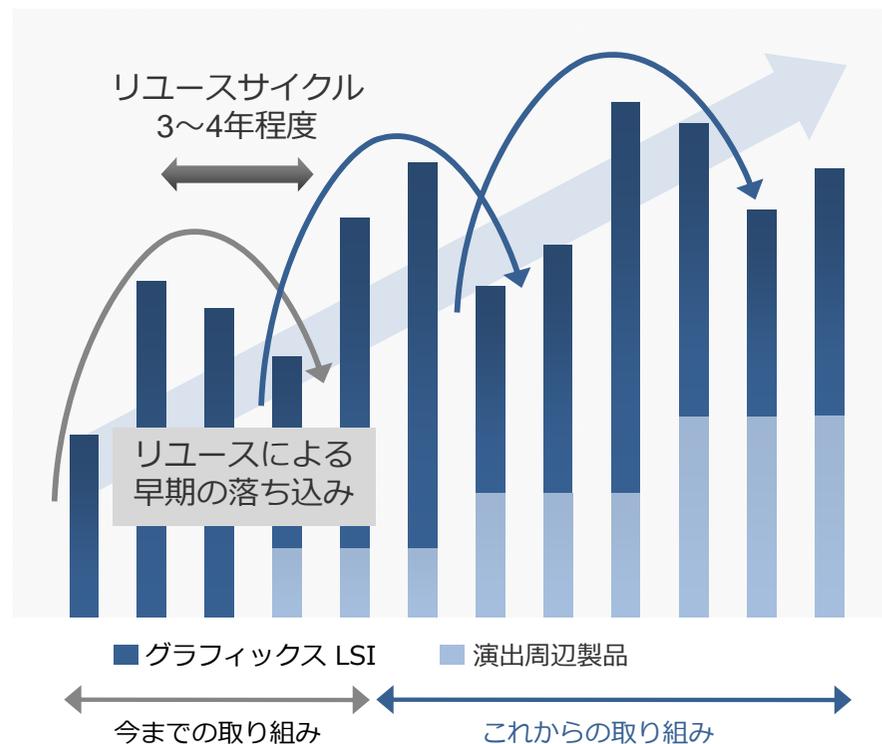


リユースの対象は、
液晶パネルや基板類

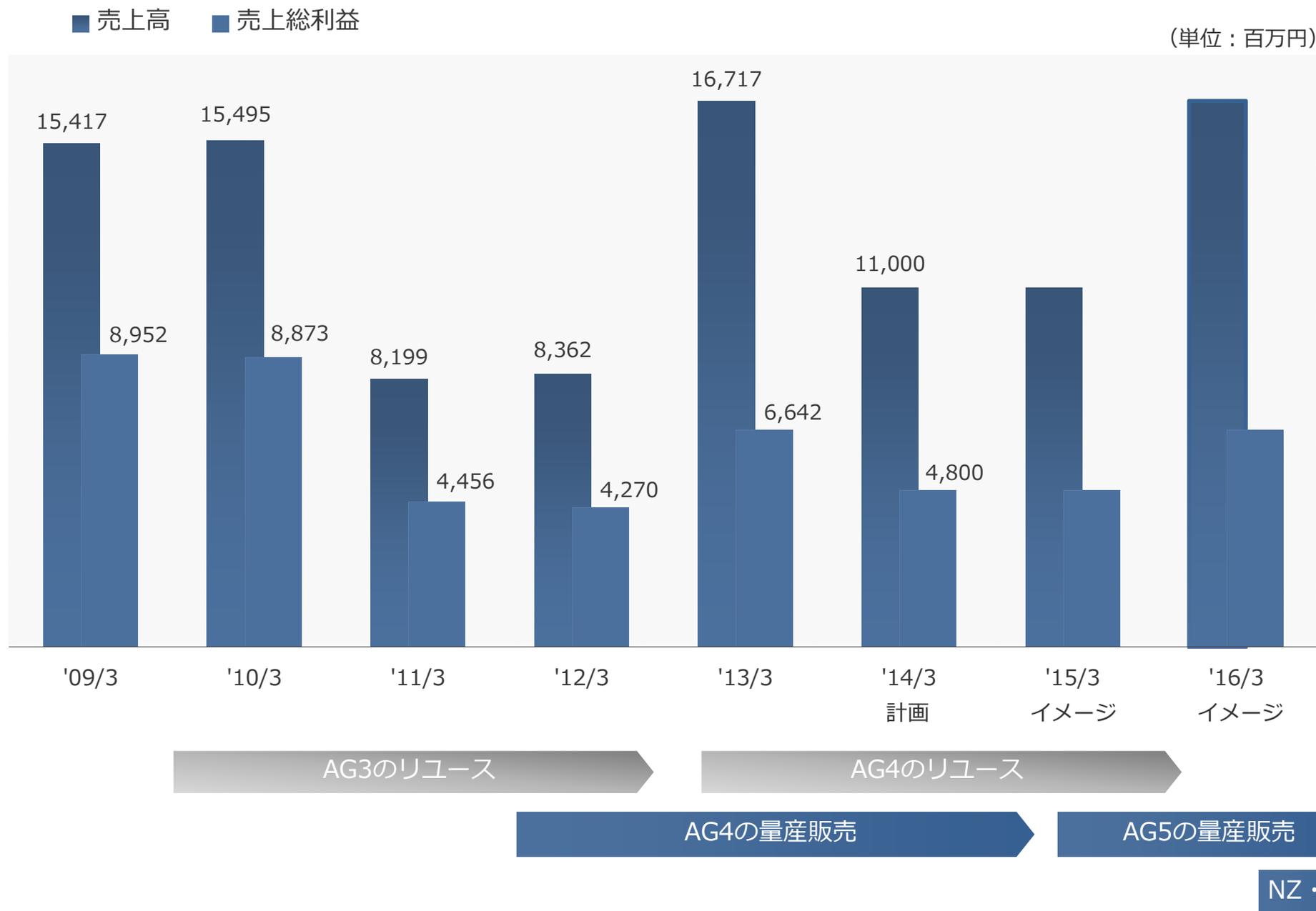


リユースサイクルと対策

- グラフィックスLSI以外の演出周辺製品の拡大により、リユースサイクルの谷底をボトムアップする

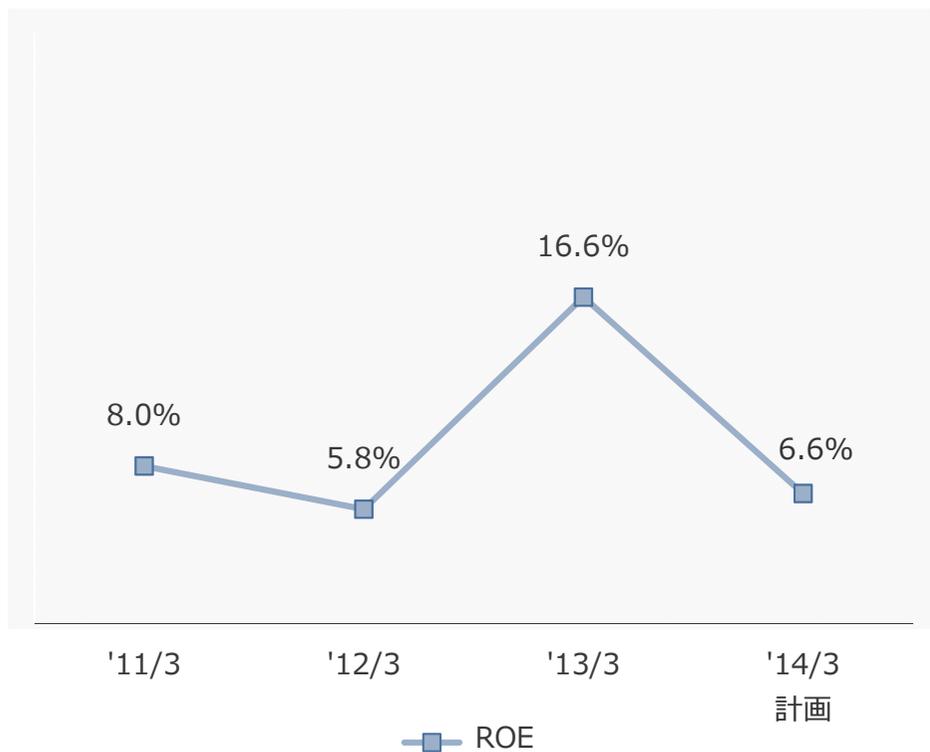


※上記グラフはリユースサイクルを説明するためのグラフであり、
グラフの高さ等は全てイメージです



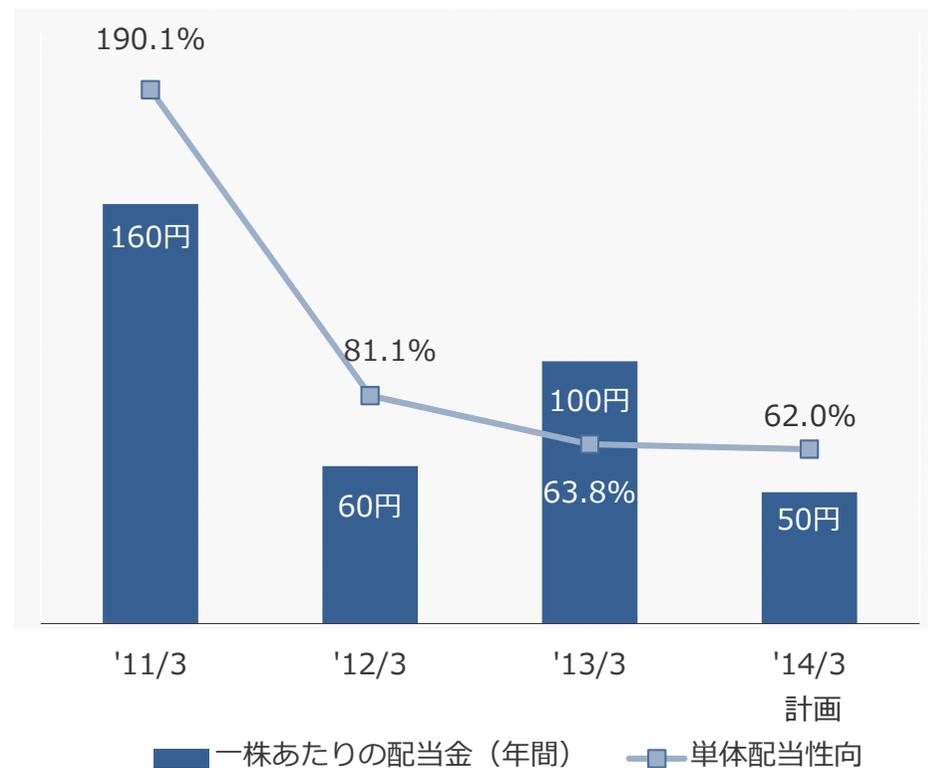
目標とする経営指標

中長期的な視点で
連結ROE10%を確保・維持



配当政策

原則として単体配当性向50%
減配になる場合は従前の配当水準を考慮



※2013/3期 は記念配当10円を含んでおり、記念配当を除外した配当性向は57.4%となります。



本資料に記載の予想数値を含む将来に係る情報は、現時点における仮定を前提としています。

実際の業績は、今後のさまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の一部または全部を弊社の許可なく、転載・複写することのないようお願い申し上げます。